「教育実習体験レポート」

[公立高等学校　地理歴史]

私は今回、母校で３週間の実習をさせていただき、高校３年生の日本史の授業をさせていただきました。文化祭準備や昼休みなどを生徒の皆さんと関わる時間にできたことや登下校の挨拶を毎日行ったことによって、授業をさせていただいた学年以外の生徒の皆さんとも関わることができました。

今回、実習をさせていただくにあたって、何事も積極的に取り組むことはもちろん、妥協しないことを目標に掲げ、全てを吸収する気持ちで実習に望みました。たくさんの方々に関わっていただく中で、多くのことを学び、吸収できたと感じています。また、ご講評の中でも積極性や吸収力を多く評価していただけたので、目標を達成できたと感じ、自信になりました。

授業見学をさせていただいた際に印象に残ったのは、どの先生も同じ単元でも全く同じ授業を行うことはなく、クラスの雰囲気や状況によって内容や話し方を変えながら生徒を惹きつける授業を行っている点でした。また、実際に教壇に立つと、想像していたよりも生徒の反応が直に感じられるので興味が途切れそうになっていることが伝わるものの、私自身の技術不足によってもう一度生徒の興味を引き戻すことができないことにもどかしさを感じることもありました。その点が今回の実習の中で一番試行錯誤したところでしたが、指導教官の先生に「生徒の反応が教師に直に伝わるように、教師の反応も生徒によく伝わるので、生徒を信じてその気持ちを態度で示すことを意識してみては」という助言をいただきました。この助言を聞き、時間内に授業を終わることを意識しすぎて問いかけをしても生徒の反応や答えをじっくり待たずに進めてしまっていた私の態度が、生徒に「信用されていない」と感じさせてしまっていたことに気づき、意識や振る舞いを変えることで生徒がより反応し、興味を持って授業に取り組んでくれるようになりました。大学では授業の構成や切り口を意識して授業を作っていましたが、その教材研究をいかすために教壇での話し方や振る舞いも重要であることを痛感しました。

今回の実習を通して、教員という職業の楽しさと憧れがより鮮明になり、学校の様々な人と関わる中で自分自身の意識や振る舞いについて考える機会にもなりました。明確な目標と指針ができ、たくさんの気づきを得たこの実習は、私の人生においてもとても意味のあるものだったと強く感じています。

実際に教壇に立たせていただかなければ気付けなかった自分の弱点や教員という仕事の楽しさなど、実習期間で吸収させていただけることは想像以上に多く、実習期間中は吸収と実践を繰り返す毎日になると思います。その教育実習期間中の学びを取りこぼすことなく自分のものにするために、教育実習前にしっかり準備し、目標を立てて、全力で望めば、必ず皆さんの人生にとって価値のある期間になると思います。精一杯誠心誠意実習に取り組み、前向きな気持ちと感謝の気持ちを忘れず、多くのことを吸収し、有意義な実習にしてください。